

令和7年度第2回あさご未来会議対話結果

1 対話結果（抜粋）

① 対話による参加者の気持ちの変化（ウェルビーイングの変化）

対話によって、点数が上昇した人の割合

97.2%

	対話前点数	対話後点数	差	変化の傾向
参加者全体	3.85	4.76	0.91	↗
年代別				
10代以下	3.63	4.79	1.17	↗
20代	4.33	4.89	0.56	↗
30代	4.08	5.00	0.92	↗
40代	4.17	4.67	0.50	↗
50代	4.06	4.89	0.83	↗
60代	3.44	4.67	1.22	↗
70代以上	3.55	4.39	0.85	↗

- ・ 対話参加者 97.2%が、対話によって対話前から対話後の点数が上昇しており、対話によってウェルビーイングが高まっている。
- ・ 点数の増加は60代の1.22が一番大きく、次に10代以下の1.17となっている。また、30代は参加者すべてが、対話後5点満点となった。

市民参画や朝来市民の幸福度を高めるためには、総合計画で示すように、市民のやりたいに連動した取り組みを実施していくこと、そしてその取り組みを検討する際には、対話から方向性を見出すことが重要となる。

② 今後必要な取組（各班の結果から見えてきたこと）

- ・ 従来の集まりだけでなく、属性（年齢や性別、趣味等）に応じた集える場づくりが必要。また、気軽につどえる場づくりが求められている。
- ・ 地域自治協議会等の地域に加えて、小・中・高等の児童生徒とともに進めていくことが重要。（託児の高校生ボランティア等）
- ・ 市民活動を促進するためには、市民同士の初期段階のつながりづくり、課題解決時には、市職員が寄り添いながら取り組むことが重要。
- ・ 情報発信は、届けたい対象によって、アナログ、SNS、動画等を使い分けること。
- ・ 事業実施段階で、参加側だけで市民を募集するのではなく、可能な範囲で、運営企画側にも参画いただくことの検討が必要。
- ・ 事業実施においては、施策単独で考えるのではなく、新たな事業との組み合わせ・掛け合わせを考えることが重要。

2 開催概要

令和4年度からスタートした第3次朝来市総合計画が令和7年度末に計画期間の半期を迎え、第3次総合計画の改訂を行った。今回の改訂では、本市がこれまで大切にしてきた「市民参画と協働によるまちづくり」を継承・発展させるとともに、新たな時代を見据え、本市がこれまでも重要課題として取り組んできた人口政策をもう一步前に進めるべく、全施策に若者に焦点をあてた視点を盛り込んだ。将来の世代も地域に希望を持ち、本市で働き・暮らし・子育てしながら幸せな未来を描けるよう、市内で動きはじめているASAGOiNGな若者の活動を知り、応援のアクションを考えることを目的に実施した。

3 開催日時

令和8年2月1日（日） 10時～12時

4 開催場所

さんとう緑風ホール

5 参加者数

72名

※受付名簿、片付け時に誤って処分してしまったため、感想シート数